

妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究

東京慈恵会医科大学青戸分院産婦人科

有 広 忠 雅

1. 研究目的

妊婦の貧血が胎盤の形態及び機能に如何なる影響を及ぼすか、さらにそれが胎児の発育へどのような影響を与えるかを追及する。

2. 研究方法

- (1) 妊婦を貧血群と正常群とに分け、さらに貧血群のうち治療により改善された群を区別し、それぞれの胎盤の機能及び形態(重量及び組織像)を比較する。
- (2) 流早産、低体重児、妊娠中毒症の胎盤の機能、形態を比較する。

- (3) 妊婦の貧血の種類、つまり鉄欠乏性貧血のみでなく他の血液疾患を合併した症例も含めて、胎盤の機能、形態を比較する。
- (4) 胎盤の機能、形態からみた新生児の発育状態を前方視的に観察する。

3. 現在の研究進行状況

内外の文献を集め、染色方法(胎盤組織)の検討を行いながら、流早産及び満期産の胎盤重量を測定、さらにその組織像にみられる変化を比較検討している。今後電顕的考察も併せて行う予定である。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1. 研究目的

妊婦の貧血が胎盤の形態及び機能に如何なる影響を及ぼすか、さらにそれが胎児の発育へどのような影響を与えるかを追及する。